●中国●

香港補習授業校

身近にある「日本」

中国南部、広東省の南に位置する香港は、中華人民共和国の特別行政区で、アジアを代表する国際都市の一つである。香港島、九龍半島、新界、周辺の島々からなる一〇〇〇平方キロメートル程度の土地に、七〇〇万人以上の人口を抱える。気候は亜熱帯に属していて湿度が高く、五月から十月までは真夏の暑さが続く。

一八四二年からイギリスの植民地であったが、一九九七年に中華人民共和国に返還され、特別行政区に改編された。「一国二制度」により本土とは異なる政治・経済・社会制度が継続され、高度な自治や市場経済、言論の自由、独自の税制や通貨を持つ。古くから金融や流通の要所であり、ショッピングや食通の街として栄えているため、世界中から観光客が訪れる。

二万人以上の日本人が住み、日本の商品や食材等は容易に手に入る。日本食レストラン（現地化した料理の店を含む）は数えきれず、また日本好きな香港人も多いため、日本文化・サブカルチャーが身近にある。

借用校舎外観

百万ドルの夜景

現地の教育環境

香港の現行の学制は、小学校六年、中学校六年（初級中学三年・高級中学三年）、大学四年である。小・中学校には、十二年の無料教育を提供している官立学校、無料および割安な資助学校、学費が必要な私立学校がある。また国際学校も数多くある。義務教育は初級中学までの九年間だが、高級中学まで一貫の中学校も多い。欧米やカナダ、オーストラリア等への進学・留学も珍しくはない。

公用語は英文（英語）と中文（中国語）とされている。実質的には広東語が共通語として使用されているが、中国本土との往来が盛んになり中国の標準語である普通話も使われるようになってきた。

香港には日本人学校が三校（小学部二校・中学部一校）あるが、本校に通う児童生徒は、前述の言語環境や学校の選択肢の多さ、国際化・多様化などを背景に、平日は現地校（中文・英文・中英文ほか）または国際学校に通学している。

アイデンティティ育成と日本文化の継承

本校は、現地校や国際学校に通う子どもを持つ保護者などが集まった設立実行委員会により二〇一一年に開校し、九龍半島と香港島の二カ所で土曜日の午前中に約三時間の授業を行っている。多様性あふれる子どもたちに日本語の補習をし日本文化等を

もちつき大会　全員がもちをつく

子どもたちから

音どくと じっけんが たのしいです。（小1）

もちつきおもしろいよ。きなこつけてたべたよ。（小2）

書き初めの授業の時，きれいな字が書けてうれしかったです。（小4）

3年目で150人以上の規模に

Hong Kong Japanese Supplementary School

URL http://hkjss.hk

児童生徒数　幼＝20人　小＝126人　中＝9人

日本舞踊観賞

——運動会——

徒競走

追っかけ玉入れ

継承するとともに、日本人としてのアイデンティティを育み、バランス感覚のとれたグローバルな人材を育成することを教育目的としている。

現在は小学部（レベルクラス・国語科・継承日本語科）・中学部・幼稚部を合わせて十三学級、計一五〇人以上の子どもたちが通っている。教員は日本の小・中学校や日本人学校の元教員、日本語教師、大学や学習塾の講師など、多方面から人材を集めている。これらの教員が教科担任制で国語・社会・算数・理科（二〇一四年度からは国語・総合）を教え、補助教員と保護者ボランティアがサポートする体制で授業を行っている。

それと共に、日本の文化、習慣、伝統、風習を体験するための学校行事も数多く行っている。入学式や卒業式などの式典、全校参加の運動会ともちつき大会をはじめとして、校舎ごとやクラスごとでも、こどもの日・七夕・お月見・書初め・節分などを開催。また、日本舞踊や落語など日本文化を紹介するイベント、社会や企業で活躍する日本人を招いてのキャリア教育授業なども実施している。

現在は香港中華YMCAとエピスエデュケーションセンターの協力のもと、保護者中心の運営委員会により運営されている。日本人学校との結びつきも年々強まっていて、一三年度は巡回指導に三回来てもらったほか、情報交換などの交流を行った。香港の賃貸市場の上昇による校舎借料の増額、年々増える入学希望者に教室と教員の確保が追いつかないこと、運営の継続性などの問題・課題もあるが、香港在留邦人の期待と要望にこたえるべく規模を拡大し、四年目を迎える。

（二〇一四年二月現在）

小学部5年　理科（実験）

日本人学校の先生による巡回指導